

副専攻のススメ

平成18年3月、新潟大学では初めて18名を副専攻修了者と認定しました。「新大広報」では、副専攻の制度の利点、あるいは大学生活の参考のために認定者からの感想・助言をいただきました。あなたも挑戦してみませんか。

平成17年度副専攻認定者数

プログラム名	認定者数
環境学	1
メディア・リテラシー	5
MOT基礎 (特許・経営及び製品開発基礎コース)	6
芸術学	3
文化財学	1
外国語(ドイツ語)	2

副専攻制度とは 副専攻制度は、所属学部学科の学位とは別に、特定分野の学習成果を認証する制度です。専門分野の勉学の成果は、卒業時に「学士」という称号を得ることで、社会的に認知されます。しかし、従来、専門分野以外の分野について、学習成果を認証する制度はありませんでした。仮に法学部の学生が社会的関心に触発されて、一定水準以上の情報科学の勉学を行ったとしても、それは社会的には認知してもらえませんでした。

副専攻制度では、当該専門分野以外の特定分野科目を一定単位数以上取得した学生にその勉学の認証を付与する制度です。学生は卒業にあたって副専攻認定の申請を行います。一定基準を満たしていることが確認されれば、専門分野に関わる「学士」の卒業証書に加え、分野を明記した「副専攻」を認定する証書を発行します。

先の例のような学生は、卒業時に「学士(法学)」の学位に加えて、大学で環境科学を学んだ公的な証明として、環境学の副専攻認定が受けられます。副専攻認定に触発されて、自主的に環境学分野で一定水準以上の学習をした法学部学生は、きっと社会の中でその経験を活かしていけるはずですよ。

環境学

結果より過程主義

私は「取得できるものは全て取得しよう」という動機の下、副専攻認定を目指しました。動機付けこそ不純ですが、最終的には多くのことを学びました。そこで、私なりにアドバイスをしたいと思います。

まず、目的を持って認定に臨んでください。私は「幅広い知識と経験を得る」という目的の下、認定に臨みました。認定を受けるからには、有益となるよう目的も持ち、モチベーションを高め、物事をより多く吸収してください。

また、私は認定科目を選定する上で、できるだけ自分の専門から外れた科目を聴講するように心がけました。ここに副専攻制度の意義があるので、できるだけ他分野に目を向けてみてください。

大学生活では、副専攻認定を目指すなど様々な方面にアンテナを立て、その中から自分の興味を持った分野を見つければ良いと思います。失敗を恐れず、何事にも挑戦する精神をもって大学生活を全うしてください。

筑波大学大学院修士課程環境科学研究科
(理学部卒)
齋藤健志さん



左から2番目(韓国ソウル市内)

メディア・リテラシー

きょうの学びは未来の自分



「大学時代」は、「なりたい自分」を考え、そこに向かって準備できる期間です。だから、一生答えを探し続けるような、人生のテーマを見つけ、やりたいこと、好きなことを満足するまで極めるべきです。

私は、必要なこと、足りないことを埋める目的と、一貫して興味を持っている「メディア」を理解したいがために、副専攻を受講しました。そのおかげで、いま自分のやりたい仕事ができているし、人生に不満がありません。やりたいことも尽きません。

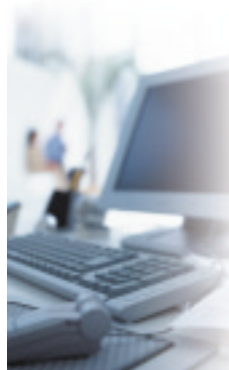
例えば仕事の間でも、学生時代に育んだ、ビジネスとは異なる視点のおかげで、多角的にネット広告を捉えることができている。仕事に、喜びや楽しみを感じる余裕があります。

後輩のみなさんに、伝えたいことはひとつ。新潟大学は、副専攻が設置されたことで、人生を極めたい人が学べる環境が整いつつあります。自分の一生を丁寧に生きるために、この環境を利用してみましょう。

株式会社サイバーエージェント インターネット広告事業本部
(人文学部卒)
高橋智里さん

副専攻プログラム一覧表(平成18年4月現在)

プログラム名(課題別)	プログラム名(分野別)
環境学	法律学
メディア・リテラシー	政治学
MOT基礎 (特許・経営及び製品開発基礎コース)	経済学
芸術学	会計学
文化財学	電子・情報科学
外国語(ドイツ語)	統合化学
外国語(英語)	
外国語(フランス語)	
外国語(ロシア語)	
外国語(中国語)	
世界システム論	
平和学	
地域学	



今回紹介する先輩たちが取得した副専攻の概要は、次のとおりです。

環境学

環境問題は、地球システムの認識に始まり、社会の経済活動に至る多様な分野に関わる問題である。人文学部、経済学部をはじめとする文系学部開設科目と理工農など自然系学部開設科目を活用して、幅広い分野に渡る環境問題への基礎理解を促すプログラムを提供する。

メディア・リテラシー

各種メディアに媒介された情報伝達が加速度的に増加しつつある今日、そのようなメディア情報に対する、的確な読み取り能力と適切な表現能力、すなわちリテラシーの習熟は、不可欠である。多岐化するメディアは多くの領域に跨っており、そのようなメディア・リテラシーは、したがって、文理各分野を横断的に学修することによってこそ、十全な習得が可能となる。この副専攻では、新潟大学各学部において取り組み始められている、メディア・リテラシー教育を連繫させることにより、そのような課題に応えた、学業を支援する。

MOT基礎(特許・経営及び製品開発基礎コース)

組織経営と技術開発の両分野は、現代の日進月歩の企業社会において、大変重要な中核部分を形成しており、両分野とも互いの基礎知識を有する人材確保を必要条件としている。そのような状況を背景として、本カリキュラムは、経済・法・理・工・農などの各分野で開設されている科目と新しく開設する科目とを活用することで、技術経営の基礎を修得できることを目的とした副専攻である。

芸術学

芸術は時代ごとの価値観を表出し、人文系諸科学の背景ともなっている。また私たちの生活を潤し、内面を豊かにしてくれる精神生活の精華でもある。この副専攻では、人文学部・教育人間科学部・農学部・工学部などの人的資源を活用することによって、感性による鑑賞の対象としてだけでなく、学問の対象として芸術を捉え直すことを通し、精神文化・造形文化の成り立ちを明らかにしつつ、人生をより豊かにするプログラムを提供する。

社会不安障害(社会恐怖)について

保健管理センター講師 坂戸 薫

最近、若者の引きこもりやニートと関連して、社会不安障害(社会恐怖)という心の病気が注目されているのをご存じですか。こうした若者の多くが実はこの病気にかかっているのではないかとされています。以前わが国ではこの病気は対人恐怖と呼ばれ日本人特有のものと考えられていましたが、社会不安障害という名の下に再把握が進み、日本人特有の病気でないことが示されています。

社会不安障害とは、人前でまじりが悪い思いをすることに強い恐怖感を抱く病気で、日常生活に支障が出るほどその恐怖感は深刻になる場合もあります。学校や職場で人と話をするのができなかつたり、人前で赤面したり震えたりするのではないかと不安になります。多くの人が初対面の人と会う前やスピーチを行う前に緊張することはありません。しかし、社会不安障害の場合、何週間も前から心配になります。そしてそれらの状況から避けようとしたりします。

社会不安障害は、たいていは小児期または思春期に発症する病気で、20代後半に発症することはあまりありません。誰もが社会不安障害になる可能性があるのですが、女性より男性に多いようです。

社会不安障害の成因としてかつてはその人の生い立ちや性格に重きが置かれていましたが、精神医学の進歩により医学的病気であり、薬によって治療可能であることがわかってきました。なかなか治らないとあきらめていた問題が、医学の力によって治るようになってきたのです。

以下、簡単なチェックリストをあげておきます。これらの項目にほとんど該当する人は、一度専門医に相談してみましょう。

- 人前で何か話して恥をかいてしまうのではないかと強い恐怖感がある。
- あやまちをおかしてしまうことや、誰かに見られ、評価されることがとても怖い。
- 何かしたり人にしゃべりたくても恥をかいてしまうことが怖くてそれができない。
- 人と会う前に何日も何週間も悩む。
- 知らない人と一緒にいる時またはそのような前に吐き気がしたり、震えたり、冷や汗をかいたり顔が赤くなったりする。
- 学校行事や人前で話すような社会的状況など、人の集まる場を避けることが多い。

MOT基礎

自分の世界を広げるために

大学院自然科学研究科生命・食料科学専攻
(農学部卒)

鈴木 蘭 さん



私の場合、主専攻に近く興味深かったのは環境学だったのだが、友人の影響でMOTに興味を持った。初めて聞く用語ばかりで多少戸惑いを覚えたが、せっかく主専攻と違う分野が認定されるのだから、どうせなら知識の幅を広げたいと思った。それに特許や開発に関する知識は研究職を目指す自分にとって必ず有益であると考えたのである。実際、他学部・他学科での受講は苦勞も少なくなかったが、卒業後も活かせる知識である技術者としての在り方や知的財産に関する知識を身に付けることができたのはもちろん、一つの専門に囚われない知識の広がり、学問分野の連携という意識は私の世界を広くした。起業や経営を考えている人でなくても、化学/科学に関連した研究や仕事をを目指す人には特にMOTを勧めたい。

私は卒業式で、学位記と副専攻認定証を受け取ったとき言い知れぬ感慨を覚えた。努力して身に付けた知識は必ず役に立つが、物事を達成したという自信にも繋がるはずである。

芸術学

趣味としての絵画鑑賞と芸術学副専攻

大学院現代社会文化研究科
(人文学部卒)

小野 慶子 さん

興味のある分野は、一つとは限りませんよね。私の場合、専攻のドイツ文学以外に、美術史にも関心がありました。当初美術史は「趣味」にするしかありませんでしたが、副専攻制度が始まったのをきっかけに本格的に勉強しようと決意し、副専攻認定を目指しました。

そして副専攻で学んだことは主専攻にも生かされました。卒業論文で私はドイツの児童文学作家ミヒャエル・エンデについて書いたのですが、彼の文学に多大な影響を与えたその父(画家)の絵画を理解するために、美術史を学んだことが役立ったのです。

副専攻に挑戦したことで、私はより自信を持って大学を卒業できました。例えば履歴書の趣味欄に堂々と「絵画鑑賞」と書けるのは(きっとそんな人はあまりいないでしょう)、私が「趣味」以上のものとして芸術学に取り組んだことを「副専攻認定」が証明してくれるからなのです。後輩の皆さんも積極的に副専攻を学び、「自信」を手に入れてみませんか？

災害復興科学センター設置

平成18年4月に、災害復興科学センターが設置されました。当センターは、平成16年に発生した新潟豪雨災害及び新潟県中越地震からの復興について、総合的な学術調査に基づく支援を目的としたもので、旧積雪地域災害研究センターを改組・拡充し発足しました。

中越地震は、日本の「原風景」ともたとえられる中山間地域で大きな被害がでたこと、加えて中越地域は世界的な豪雪地域で、地震・豪雪複合災害であることも大きな特徴です。中越大震災の復旧・復興は、日本の国土で最も広い面積をもち都市での生活を支える中山間地域で、これから予測される災害に対して多くの貴重な教訓を発信するものです。

当センターは、生活安全、地域産業支援、防災、情報通信の4部門からなり、このもとに専門別の13分野が属す総合的な組織で、総数68名の教員（専任8、特任5、兼任53、客員2）から構成されます。



妙見崩れ

■連絡先／災害復興科学センター
TEL025-262-7051

大学院技術経営研究科設置

大学院技術経営研究科で何を学ぶのか

組織ではその目的遂行のために、個々の担当者が分担して仕事を進めることとなりますが、個々人の能力に大きく依存した仕事の進め方がなされ、組織全体の能力を発揮しているとは言い難いことが多くあります。

それぞれの組織には、いろんな分野に長けた人がおり、また経験豊富なベテランもいれば、必ずしもそうでない人もいます。いろんな分野に秀でた周りの人たちの力を借りることによって、担当者が見落としがちな隘路にも気づき、組織としての知力・脳力を活かした仕事ができれば、組織としての成果を最大にすることができます。

このような周りの人たちの知力・脳力を結集することによって、担当者ひとりでは陥りがちな推論の隘路にも気づき、的確にしてタイムリーに決断・実行する「組織として仕事をする」方法を学ぶことが求められます。

日々に遭遇する未知の課題に対し、このような組織の知の循環を通して、担当者ひとりでは考えられないようなすばらしい仕事ができるように、問題解決能力を育成することが本研究科の目指すことです。モノづくり技術開発基地としての新潟地域産業のイノベーションを図り、世界に向けて発信し続けていくサポート機能を担った専門職大学院です。

大学院技術経営研究科長
栢田 正美



■連絡先／大学院技術経営研究科学務第一係
TEL025-262-6332

新潟大学全学同窓会設立 —記念式典と祝賀会—

新潟大学の法人化と時を合わせて発足した新潟大学全学同窓会連絡協議会は、2年間の準備期間を経て、平成18年4月1日より、新潟大学全学同窓会として正式に発足しました。

今までどおり既存の9つの各学部同窓会が中心になることは同じですが、それに教職員による校友会会員、大学院修了生や協賛企業などを加えて、新潟大学を強力に支援する10万人のサポート団体が誕生したのです。

5月27日、各学部の同窓会代表と校友会の代表による理事会が開催され、予算の承認とともに、「同窓会カード」事業の推進、同窓会旗の制作などが決議されました。

同日開催された全学同窓会設立記念式典はホテルイタリア軒を会場に、柳本雄司会長・長谷川彰学長の式辞のあと、泉田裕彦新潟県知事、上原明新潟商工会議所会頭の来賓挨拶がありました。

祝賀演奏として管絃四重奏と「新潟大学学生歌」などの合唱があり、記念祝賀会に入りました。多和田孝雄副会長の主催者挨拶につづいて、篠田昭新潟市長の来賓挨拶、荒川正昭前学長の乾杯の音頭で賑やかに開会し、大石道明首都圏同窓会会長など多士済々の飛び入り挨拶や、シンボルマーク制定にご協力の橋本学先生への感謝状の贈呈もあり、



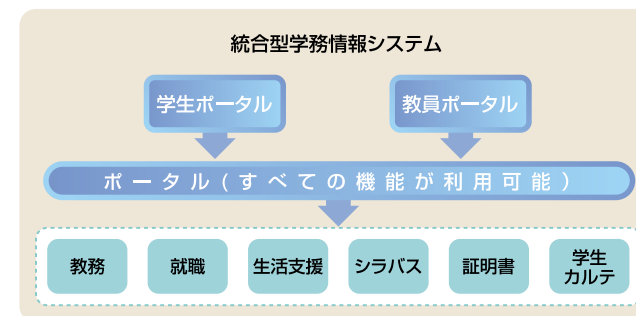
田中隆一副会長の閉会の辞で、全学同窓会設立の祝賀会は盛会裡に終了しました。

新潟大学全学同窓会会長
柳本 雄司

■連絡先／新潟大学全学同窓会 TEL025-262-7891

8月から学務情報システムが生まれ変わりました!

新潟大学では、開講しているすべての授業科目を学生のみなさんが有効に受講できるようにしたり、特定分野の学習成果を認定する副専攻制度を導入したりするなど、新たな学士課程教育をめざした教育改革を行っています。



このような教育改革を強力にバックアップするため、みなさんが履修申請や成績の確認などで利用している現在の学務情報システムを、ポータルによるWebサービスへと一新しました。

新しいシステムは、これまでの機能に加えて、ポータルを通じて、必要な情報がすぐに見られるようになるなど、大変便利になりますので、積極的に活用してみてください!

■連絡先／全学教育機構学務情報部門
support-ness@ge.niigata-u.ac.jp

新学務情報システム URL
<https://ness.niigata-u.ac.jp/>

関連情報 URL
<http://www.ge.niigata-u.ac.jp/iie/gakumu/gakunai/ness/>
(学内参照のみ)

学務部からのお知らせ

新設 学業等成績優秀者奨学金制度新設

平成18年度から、新潟大学が独自に、学部学生を対象とした新たな奨学金制度として、入学試験成績優秀者及び年間学業成績優秀者に返還を要しない奨学金を支給し、顕彰する制度を設けました。



学業等成績優秀者奨学金授与式

この奨学金制度は、優秀な学生の確保及び在学生の更なる学業成績の向上並びに学生の活力の醸成を図ることを目的としています。

奨学金支給の対象者等の概要は、次のとおりです。

- **入試成績優秀者奨学金**／大学入試センター試験を課す入学者選抜試験（特別選抜を除く。）を経て入学した者のうち、入試成績が各学部（医学部は各学科）の上位である者3名（合計30名）に支給
- **学業成績優秀者奨学金**／2年生以上の学生で、前年度に取得した単位数の合計が標準修得単位数以上の者のうち、前年度の学業成績が各学部・各学年の上位である者3名（合計102名）に支給

■連絡先／学務部 TEL025-262-7337

違法駐車禁止!

本学では、通学距離の遠近にかかわらず、構内駐車を伴う学部学生の自動車通学を禁止しています。

ところが、一部の不心得な学生が、交通事情や実習等により帰宅時間が遅くなることを理由に自動車通学し、五十嵐キャンパス周辺道路又はコンビニエンスストア等の私有地に無断で長時間にわたり違法な駐車を行っています。

このことから、周辺住民から大学に対し、違法駐車への苦情や対策強化を望む申し入れが再三にわたり寄せられています。大学周辺での違法駐車は、地域住民、店舗や通行の迷惑になるばかりでなく、緊急車両等の通行の妨げにもなりますので、自動車の違法駐車はしてはいけません。

学生諸君においても規則を遵守し、自動車通学は絶対にやめてください。

■連絡先／学務部 TEL025-262-7506

新設 新潟大学修学支援貸与金制度新設

本制度は、学部及び大学院の学生を対象として、安定的な学修環境の確保を支援することを目的に家計事情等の理由により、一時的に必要な学資（学会参加費、書籍代、教材費、授業料など）の支弁が困難な学生に対して修学支援金を貸与します。

対象者や金額等の概要は、次のとおりです。

- **修学支援貸与金の対象者**
学部及び大学院生で、家計事情等の理由により、一時的に必要な学資の支弁が困難となった者
 - **貸与金額**
無利子の貸与金
5万円以上10万円までの範囲で選択（万円単位）
 - **貸与申請の時期**
4月期及び10月期とする。家計等急変者は、年度を通じて随時とする。所定の申請書により、申請理由を付す。
 - **貸与者の選考**
提出された申請書により、学長が選考する。
 - **返還方法**
借入日から2年以内に返還する。ただし、返還最終日が卒業の日を超えるときは、卒業の日までとする。
- 連絡先／学務部 TEL025-262-7337



新大中門向かいのセーブオン脇

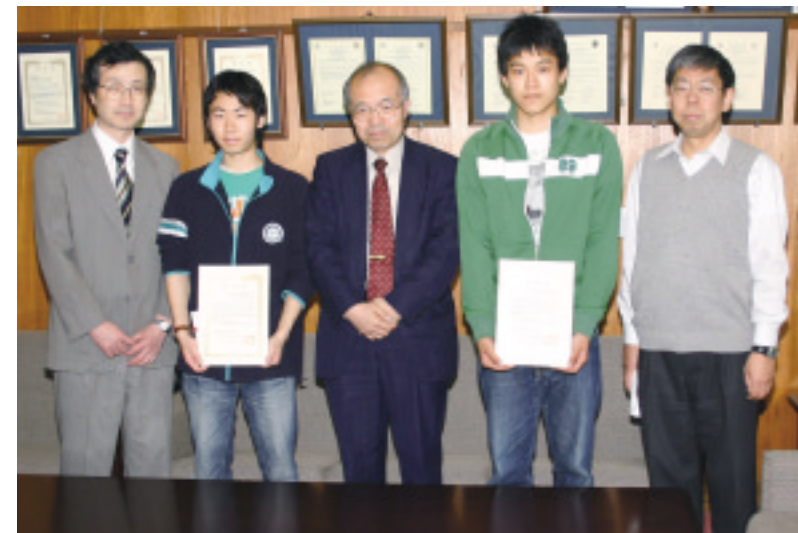
違法駐車として特に問題となっているところ

- 新大西門隣接のコダマ薬局の駐車場
- 新大中門向かいのセーブオン脇の敷地
- 新大西門向かいのセーブオン駐車場

お手柄! 工学部学生、人命救助で表彰

工学部では、ボランティア活動や課外活動、人命救助等で表彰に値する行為のあった学生を表彰しています。このたび、5月17日工学部において、仙石工学部長から、機械システム工学科の学生2人に対し、藤澤学科長と間瀬厚生委員立会いの下、表彰状と図書券が授与されました。

表彰された2人は、新入生の高橋竜冬君と豊田貴嗣君で、4月11日午後4時半頃、新潟市内野町の西川（1級河川）に誤って落ち、助けを求めている小学2年の女兒2人を発見、すばやく現場に急行し、近所に住むお年寄りと連携して救助しました。当日の夜に無事救助された女兒の母親から大学へお礼の連絡があり、はじめてわかったものです。工学部では、学生の模範となる行為で、大事故を未然に防いだとして、その功績を称えました。



左から間瀬厚生委員、高橋君、仙石工学部長、豊田君、藤澤機械システム工学科長

編集後記

新大広報161号の発行に当たり、全学同窓会のご協力を得ることができ、社会で活躍している先輩から貴重なメッセージを頂きました。感謝申し上げます。ご紹介できませんでしたが先輩にはお詫び申し上げます。これを機会に卒業生と現役の大学生とがうまく連携の取れた企画ができることを期待しています。

●編集委員長 寺田員人

新潟大学の学生諸君へ、学内のさまざまな情報をお送りしている新大広報。今回から、学外の文化施設へも目を向けてより豊かな知的生活を送ろう、という提案をすることになりました。「りゅーとびあ」と「みなとびあ」には、新潟の文化を牽引する力と情熱があります。ぜひ出かけてみましょう。

●編集委員 石坂妙子

今回の特集のために、経済学部の古参の先生方や編集担当の諸先生から、多彩に活躍する卒業生のお話を数々伺いました。大きく変化する社会経済環境に旅立つ学生のために、いま大学で何を教えるのか、一人の教員として考えさせられました。

●編集委員 芳賀健一

今年度、副専攻制度での初めて認定者が出ました。GPA水準など厳しい条件を越えたもので、立派なことです。今回その認定者の方々の文章を読んで、そのバイタリティを感じました。多くの学生さんがチャレンジして、副専攻認定証書を獲得して欲しいと思います。

●編集委員 竹内照雄

新潟大学のなかで生まれている膨大な情報の「海」から何をCampus Magazineに読み込んでいくのかは大変な作業ですが、今後さらに充実した誌面になっていくものと思います。私自身はこれまで留学生のお手伝いを比較的好くしてきているのですが、国際交流の特集などもやってみたく考えています。

●編集委員 井村哲郎

新大広報
Back
Number

http://www.niigatau.ac.jp/gakugai/pr/c_forum/

新大広報のバックナンバーは上記のURLから見ることもできます。また、学務部学生支援課で受け取ることもできます。

新潟大学
ホームページ

<http://www.niigata-u.ac.jp/>

広報委員会第1部会

- 部会長・編集委員長
寺田員人 (医歯学総合病院) tera@dent.
委員
石坂妙子 (教育人間科学部) ishizaka@ed.
田中拓道 (法学部) takujit@jura.
芳賀健一 (経済学部) haga@econ.
竹内照雄 (理学部) takeuchi@math.sc.
柴田 実 (医学部医学科) mshibata@med.
川瀬知之 (歯学部) kawase@dent.
林 豊彦 (工学部) hayashi@bc.
末吉 邦 (農学部) sueyoshi@agr.
井村哲郎 (大学院現代社会文化研究科) imurai@human.
杉山博信 (大学院自然科学研究科) hydsugi@cc.
横山肇介 (脳研究所) myoko@bri.
馬淵憲治 (学務部長) kmab@adm.
事務局 (学務部)
TEL 262-6309 FAX 262-7516
E-mailのアドレスは、niigata-u.ac.jpの表記を省略しています。